わくわくモーモースクールが開催されました

神奈川県酪農教育ファーム推進委員会による「わくわくモーモースクール」は、県内の小学校を対象に年に1回開催されています。今年度は1月23日に横須賀市立桜小学校で開催され、児童たちに乳牛とのふれあい体験を通じて動物に対する興味を高め、命の尊さを伝えるとともに酪農に対する理解を深める機会となりました。

当日は成牛1頭と子牛2頭が学校内に搬入され、県内の酪農家（6名）や乳業メーカー、当所を含む県関係機関の職員が協力し、「搾乳体験」「子牛とのふれあい体験」「バター作り体験」「牧場の仕事」「牛の体の秘密」などの授業が、全校児童259名を対象に行われました。

児童たちは「搾乳体験」や「子牛とのふれあい体験」に参加し、生きた牛に触れ温かさを感じ取るとともに、等身大の牛の模型を使った搾乳体験もしました。

「バター作り体験」の授業は、乳業メーカー職員が校内放送のＴＶモニターを通して、各教室へ配信し実施されました。

「牧場の仕事」では酪農家が道具や餌を紹介しながら授業を行い、「牛の体の秘密」では当所と畜産課職員が牛の一生や生産された生乳が牧場から食卓までに届く過程を、イラスト入りのタペストリーを使って紹介しました。

「牛はなぜ「も～」となくの？」や「牛の寿命はどれぐらいなの？」といった児童からの質問には、職員が丁寧に答えました。

授業終了後、給食の時間には、神奈川県内産100％「牛乳」とそれを原料とした「ドリア」を提供し、児童たちに味わってもらいました。

厳しい酪農情勢の中ではありますが、児童たちの牛や酪農に対する高い関心と反応が直接伝わるこのイベントは、酪農家にとって励みとなる良い機会となりました。

畜産技術センターでは、今後も県民の酪農への理解を深める支援活動を続けてまいります。

酪農家による「牧場の仕事」の授業

酪農家による「搾乳体験」の授業

普及指導員による「牛の体の秘密」の授業

当日提供された「神奈川県産100%牛乳を使用した”ドリア”」と「神奈川県産100%”牛乳”」